

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：32612

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24710292

研究課題名(和文)ポストウェストファリア体制の国家像の模索：欧州辺境の未承認国家の比較研究から

 研究課題名(英文) To inquire into the new images of the nation in the post-Westfalia system period:
 By comparing of the unrecognized states situated around Europe

研究代表者

廣瀬 陽子 (HIROSE, Yoko)

慶應義塾大学・総合政策学部・教授

研究者番号：30348841

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では未承認国家に関する多面的な研究を国際的に行い、書籍、論文を多数発表し、学会等での報告も国内外で多数行い、多くの成果を発表した。特に『未承認国家と覇権なき世界』の出版の成果は大きく、同書では未承認国家の先行研究を整理した上で、現存の未承認国家の比較検討を行い、新規的な議論として大国の対外政策(特に海外軍事基地政策)と未承認国家の関係を明らかにするなどし、その国際的影響を問うたところ、大きな反響を得ることができた。また、最終年度は「凍結された紛争」の研究課題を絡め、研究をより発展させることができた。来年度以降は国際共同研究基金に採択されたことから、より国際的に本研究を継続していきたい。

研究成果の概要(英文)：In this study, I carried out the multi-dimensional and international cooperative research on unrecognized states, and I published many books and papers, and read many papers at the academic conferences both at home and abroad. Then it has been called the great responses. The most distinguish result was the publication of the "Unrecognized State and the world without hegemony ." It made clear the previous studies, did the comparative study of unrecognized states, and report the new study on its international influences focusing on the big power 's foreign policy (especially overseas military base policy); and it was able to get a great response. In addition, I studied this issue with the new research agenda "frozen conflicts", and succeed to make the further development. I will develop this research with international joint research in the future.

研究分野：国際政治、平和研究、旧ソ連地域研究

キーワード：未承認国家 凍結された紛争 ロシア 旧ソ連 領土保全 民族自決 在外軍事基地 国家承認

1. 研究開始当初の背景

筆者は、自らの博士論文に関わる研究や多くの科学研究費や委託研究、共同研究などで、90年代末から、本申請の研究課題の前提となるような研究を行ってきた。それらも類例の研究が極めて少なく、大いに意義があったと確信しているが、旧ソ連と旧東欧では、歴史的背景や欧州との距離が違い過ぎて、比較の対象としては必ずしも適切ではないと感じた。

このような、これまでの本研究の前提となるような研究の中で、特に重要だと感じられたテーマが本研究の課題である未承認国家問題であった。未承認国家とは、「住民の支持を得ている組織化された政治的指導者がおり、その領域内に十分な行政サービスを提供でき、ある一定期間十分な支配を維持できるものであり、かつそれは他国との関係を築けると考え、憲法的な独立と主権国家としての広い国際承認を求めている主体」と定義できるが、実は、その多くは欧州の辺境、特に黒海沿岸地域や中東と欧州の狭間の地域に多く存在している。具体的には、旧ソ連のモルドヴァの沿ドニエストル、グルジアの南オセチアとアブハジア、アゼルバイジャンのナゴルノ・カラバフ、そして旧ユーゴスラヴィアの Kosovo、またギリシャとトルコの懸案事項となっているキプロスやイスラエルとの懸案問題となっているパレスチナなどである。もちろん、台湾などアジアにも未承認国家は存在するが、政治的に安定しているのに対し、ヨーロッパ地域の未承認国家では、2008年の南オセチア問題に端を発したグルジア・ロシア戦争に象徴されるように、不安定な状況が続いていた。

それでは、何故、欧州の辺境で未承認国家問題が深刻化するのだろうか。筆者は、その理由を、欧州の中心部は、国民国家の伝統が長く、国境が比較的早くから確立し、

戦争などが起こった際にも、政治的に国境がその都度、関係国の合意の基に引かれ直されてきたのに対し、辺境では国民国家の歴史が浅かったり、大国に振り回されて合意もないままに恣意的に国境を引かれたりしてきたことにあるのではないかと考えた。

また、本研究を申請した2011年頃は、アラブの春をはじめ、国際政治における新たな動きが色々出てきた頃であり、新たなスタイルの国際政治の主体を検討することは、変わりゆく世界像を明確にとらえ、新しい国家像を理論化する上でも重要なプロセスだと考えたのである。

よって、本研究は極めて先駆的であり、日本でも世界でも、先行研究はほとんどないと確信していた。

まず日本では、松里公孝が黒海地域での未承認国家問題について多くの研究成果を出してきた。それらは極めて素晴らしい研究成果であるが、調査がほぼ未承認国家側でしか行われていないことに問題を感じた。

海外では、チャールズ・キング氏の一連の研究が特筆に値し、黒海地域、コーカサス地域について単著や論文を数多く出している。キング氏は歴史に造詣が深く、その上、現代の状況についての理解・分析も優れているため、氏の研究は極めて厚みがあるが、比較分析という視点が欠けており、各地域で完結した研究に留まっている。

また、故・ロナルド・アスムス氏は、旧ソ連や東欧地域の現代の問題を常に広く扱っていたが、氏の研究にはやはり比較の視点が欠けており、その研究は地域完結型ないしある問題に特化しているため、筆者が研究したい比較に基づく包括的な検討という課題には答えてはくれない。

このように、申請者の問題意識に近い研究はあるが、全て地域研究にとどまり、筆者のように比較研究や理論化を進めている

研究は皆無だった。そこで、本研究は極めて重要な意義を持つと考えたのだった。

2. 研究の目的

国際政治学は、長らくウエストファリア体制、すなわち国民国家を中心とする見方によって成り立ってきたが、グローバリゼーションが進み、EUなどに代表される「国家」ではない国際政治の主体が力を持ってきたこと、さらに本研究で扱う「未承認国家」が出現してきたことで「国家」や「国家承認」の意味が曖昧になってきたことにより、従来のアプローチはもはや限界を迎えていると言って良い。そこで、本研究では未承認国家、具体的には旧ソ連および旧ユーゴスラヴィアの未承認国家の問題を多面的に比較検討する。それにより、二つの目的を達成することを予定していた。

第一に、無法地帯を生み、世界の不安定化要因となっているにもかかわらず、あまり学術的に検討されてこなかった未承認国家の諸問題を浮き彫りにすることであった。

第二に、未承認国家の事例研究により、ポスト・ウエストファリア時代の国家像を模索し、現状にみあった新たな国際政治の理論を構築することであった。

3. 研究の方法

本研究は文献調査と現地調査を主軸として進め、旧ソ連と旧ユーゴスラヴィアの実際の比較を行う未承認国家およびその本国での調査に加え、両地域に大きな影響を与えている諸国、国際機関でも調査を行った。

文献調査は、既刊の雑誌、書籍等を再度検討し、新刊のものも全て入手して行う。現地調査では、現地の識者、政策に関わっている者、ジャーナリスト、一般の方々などにインタビューを行ったり、意識調査をしたりするほか、資料収集等も行った。

また、2013年度には、アメリカ合衆国のコロンビア大学ハリマン研究所で在外研究

を行う機会を得られ、国際共同研究も充実した形で進めることができた。

加えて、効率的に研究を行うため、国内外の研究協力者に研究の支援やアドバイスを逐次仰ぎ、国際学会での報告や講演、論文・書籍の発表などで、研究の状況を逐次発信し、またそれに対しての反響も国内外から得ることで、新規の研究手法や新たな研究協力者も常に求めて、柔軟に軌道修正を行いつつ研究を進めた。たとえば、本研究に大いに関わる問題を多く含む「ウクライナ危機」が2013年末から深刻化した際にも、研究計画を柔軟に変え、ウクライナ危機も本研究の重要な事例研究として多くの研究成果を出すことができた。

4. 研究成果

本研究では、未承認国家に関する多面的な研究を国際的に行い、書籍、論文を多数発表し、学会等での報告も国内外で多数行い、多くの成果を発表した。以下に、特に特筆すべき成果を項目ごとに記す。

(1) 『未承認国家と覇権なき世界』の出版

2014年に出版した本書は、本研究の成果のかなりの部分をまとめたものである。同書では未承認国家の先行研究を整理した上で、現地調査の成果も踏まえて現存の未承認国家の比較検討を行った。また、2013年末からウクライナ危機が深刻化したことに対応し、特にロシアの国際法を無視したクリミア編入や今後、未承認国家になり得る東部ウクライナの状況の分析なども踏まえ、最新の事例も踏まえた最先端の研究書となった。また、新規的な議論として大国の対外政策（特に海外軍事基地政策）と未承認国家の関係を明らかにするなどし、その国際的影響を問うた。結果として、学界からも、日本国内外からも、大きな反響を得ることができ、多くの執筆や講演の依頼を受けたほか、インタビュー記事も多数出された。加えて、国際政治経済の教科書的な書籍や専門用語集などの項目にも

新たに指定され、執筆を頼まれるなど、学界にも大きな影響を与えることができたと自負する。

(2) ウクライナ危機への最先端の対応

2013 年末からのウクライナ危機は、本研究にも大きく関わる場所であり、当初の計画には入っていなかったが、ウクライナ危機の研究にも尽力し、タイムリーに多くの研究成果を発表することができた。本問題の趨勢は、未承認国家研究の今後にも大きく関わるため、今後も常時注目し、臨機応変に対応して研究を深めていきたい。

(3) 凍結された紛争へのフォーカス

本研究の過程で、未承認国家の解決が極めて難しいという事実を再確認し、未承認国家問題を解決するというアプローチだけでなく、未承認国家を生み出さないようにする研究が必要だと考えた。その中でもっとも重要だと考えたのが、「凍結された紛争」の予防、ないし解決である。そこで、未承認国家問題を凍結された紛争という側面と絡めて研究するために、科学研究費・基盤研究(C) (特設分野研究)「凍結された紛争：その予防と積極的平和の模索」(2015～2019年)に応募し、採択された。凍結された紛争にフォーカスした研究はまだ1年目であるが、2016年4月1日に、未承認国家の一つである「ナゴルノ・カラバフ」において、1994年に締結され、以後、小競り合いはあったとはいえほぼ維持されてきた停戦が破られ、5日間に渡る局地戦争が勃発した。このことは、未承認国家問題の和平を考える上で、凍結された紛争がいかに脆弱であるかを改めて示した事例だと言える。この新しい動向も踏まえ、今後も凍結された紛争と未承認国家問題を絡めて研究していきたい。

(4) 国際共同研究

本研究においては、国際共同研究も大きな意味を持った。何故なら、研究対象が国際的な問題であることから、多面的な国際共同研究

こそが、研究の効率をよくするだけでなく、内容の充実化を可能にすると考えたからである。本研究期間中も、様々な形で国際共同研究を行い、共同論文を執筆したり、国際学会で共にパネルを組んだりして、研究の充実化を図ることができた。特に、2013年度には、アメリカ合衆国のコロンビア大学・ハリマン研究所で約一年間の在外研究を行うことができ、同研究所には、専任の優れた研究者だけでなく、世界中からの訪問研究者もいたことから、極めて充実した共同研究を行うことができた。それに加え、同じくアメリカ合衆国のジョージメイソン大学；フィンランドのヘルシンキ大学アレクサンテリ研究所、タンペレ大学、オウル大学など5研究機関、エストニアのタルトゥ大学、リトアニアのヴィリユニス大学、アゼルバイジャンのアゼルバイジャン科学アカデミー、アゼルバイジャン外交アカデミー、アゼルバイジャン大統領附属戦略研究センターなどとの研究を進めることができた。

加えて、2015年度に本研究を研究テーマとして、科学研究費国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)に採択していただき、2017年3月より約1年間、ヘルシンキ大学アレクサンテリ研究所にて、国際共同研究を行えることとなった。本研究をより発展させていく非常に良い機会をいただけたことに心から感謝すると共に、良い成果を上げたいと考える所存である。

5. 主な発表論文等 〔雑誌論文〕(計19件)

廣瀬陽子「帝国の落とし子、未承認国家」『アステイオン』84巻、2016年(掲載予定)

Yoko HIROSE, "The Complexity of Nationalism in Azerbaijan," *International Journal of Social Science Studies*, Vol. 4, No. 5, May 2016, pp.136-149. 【査読付】

(<http://redfame.com/journal/index.php/ijsss/article/view/1531>)

廣瀬陽子「北極圏をめぐる近年のロシアの動き：中国の動向に注目して」『国際情勢』第86号、2016年3月、75-88頁。

Yoko HIROSE, "Unrecognized States in the Former USSR and Kosovo: A Focus on Standing Armies," *Open Journal of Political Science*, Vol.6 No.1, 2016, pp.67-82. 【査読付】

(<http://www.scirp.org/journal/PaperInformation.aspx?paperID=62647>)

廣瀬陽子「世界地図は一つではない：暫定国境と未承認国家」『kotoba』第21号(季刊誌・2015年秋号) 90-93頁。

Yoko Hirose and Grazvydas Jasutis, 2014. "Analyzing the Upsurge of Violence and Mediation in the Nagorno-Karabakh Conflict," *Stability: International Journal of Security and Development* 3(1):23, pp.1-18. 【査読付】

([file:///Users/Yoko/Downloads/237-1075-1-PB%20\(1\).pdf](file:///Users/Yoko/Downloads/237-1075-1-PB%20(1).pdf))

廣瀬陽子「ロシアのハイブリッド戦争に関する一考察」『国際情勢』第85号、2015年3月、95-100頁。

廣瀬陽子「ウクライナ問題への欧米口の立場と動き」『e-World』2015年2月25日；朝日新聞「WEB新書」にも転載。同、加筆修正版が「ウクライナに平和は訪れるか：和平合意、背景に大国の利害」として『e-World Premium』Vol.14、2015年3月号、pp.17-23にも転載。

廣瀬陽子【時の問題】「コーカサスの紛争を巡る歴史的背景の客観的事実と認識ギャップの比較研究」『法学教室』(2014年7月号、No.408) 44-54頁。

廣瀬陽子「コーカサスの紛争を巡る歴史的背景の客観的事実と認識ギャップの比較研究」公益財団法人 JFE21世紀財団 2013年度大学助成『アジア歴史研究報告書』2014年4月、19-43頁。

廣瀬陽子「クリミア編入、プーチンの強気の背景とは」『e-World』2014年3月26日；朝日新聞「WEB新書」pp.1-10にも転載。同、加筆修正版が『e-World Premium』2014年4月号、pp.17-23にも転載。

Yoko HIROSE, "The Need for Standard Policies on State Recognition: The Case of the Russia-Georgia War, Georgia, and Azerbaijan From 2008 to Early 2012," *International Relations and Diplomacy*, January 2014, Vol. 2, No. 1, pp.1-15 [総15頁] (ISSN 2328-2134)

廣瀬陽子「ソチ五輪にけるロシアの思惑カフカスの不満を抑えきれず」『エコノミスト』2014年1月28日・特大号、90-93頁。

廣瀬陽子「ユーラシア統合の理想と現実 思惑が交錯する中でのナショナリズムとリージョナリズムの相克」日本国際問題研究所『地域統合の現在と未来』2013年4月、95-117頁 [総22頁]。

廣瀬陽子「グルジア議会選挙後の政治展望 - 新政権の性格と政策の検討を中心に - 」『国際情勢』第83号(2013年) 157-171頁。

Yoko HIROSE, "Complex perspectives on Nagorno Karabakh: from comparative views between the Azerbaijanis and the Armenians," *Research Papers of the International Scientific Conference: The Place and Role of Caucasian Albania in the History of Azerbaijan and Caucasus*, Baku, 2012, 126-144 (総366頁)。

廣瀬陽子「旧ソ連諸国が危惧する第二の「色革命」」『地域研究』12巻、1号(2012年) 88-112頁。【査読付】

廣瀬陽子「シリア問題をめぐるロシアの戦略—地政学的思惑と限界」『中東研究』2012年度、Vol. 、No.516、58-68頁。

廣瀬陽子「グルジア紛争後のグルジアとアゼルバイジャン：未承認国家政策の変化を中心に」『国際情勢』第82号(2012年) 157-168頁。

〔学会発表等〕(計9件)

<学会発表>

Yoko Hirose, "Complexity of Nationalism in Azerbaijan," ICCEES (the International Council for Central and East European Studies) ICCEES IX World Congress 2015 in Makuhari (英語報告) (神田外国語大学 (千葉県) 2015年8月7日)

廣瀬陽子「ウクライナ危機とロシア：グルジア紛争との比較を中心に」ロシア東欧学会 2014年度研究大会<共通論題：ウクライナ危機を巡る国際関係(第二セッション)>にて報告(岡山大学(岡山県)、2014年10月4日)

Yoko Hirose, "The Unrecognized States in the Former USSR and Kosovo: Focusing on the Legacies of 'Empires'", at the 45th Annual Convention of the ASEES (American Association for the Advancement of Slavic Studies)(英語報告) (米国・Boston Marriott Copley Place in Boston, 21-24 November, 2013)

<シンポジウム等での学術発表>

Yoko HIROSE, "Japan's Global Diplomacy: Views From The Next Generation," at The Stimson Center, USA, March 10, 2015 (in English)

廣瀬陽子「未承認国家から考えるこれからの「国家」<経済倶楽部・アジア平和貢献セミナー共催シンポジウム>『国際社会の中で「国」という枠組みは今後どうなっていくのか』(進藤栄一、廣瀬陽子、大庭三枝、西原春夫) 2015年2月13日、経済倶楽部(東京都)

Yoko HIROSE, "Japan-Russia Relations: Tokyo's Balancing Act" presented at The Stimson Center [East Asia Program : Japan's Global Diplomacy: Views From The Next Generation, The Stimson Center, USA, September 9, 2014 (in English).

Yoko HIROSE, "Japan-Russia Relations" presented at The Stimson Center [East Asia Program : Japan's Global Diplomacy: Views From The Next Generation, The Stimson Center, USA, September 8, 2014 (in English).

Yoko HIROSE, "The escalating crisis in Ukraine and Japan-Russia relations" in the Press conference at FCCJ by Ihor Kahrchenko; Yoko Hirose; James D.J. Brown, June 12, 2014, at the Foreign Correspondents Club of Japan (in English)

廣瀬陽子「ユーラシア統合の理想と現実」を国際問題研究所・公開シンポジウム「地域統合の現在と未来」調査研究成果報告会、セッション2:「中東・ユーラシア」にて報告(日本国際問題研究所大会議室(東京都) 2013年2月6日)

〔図書〕(計6件)

<単著>

廣瀬陽子『アゼルバイジャン：文明の十字路で躍動する「火の国」』群像社(2016年5月刊行予定)

廣瀬陽子『未承認国家と覇権なき世界』NHK出版(2014年8月刊行)【総頁 320】

<共著>

廣瀬陽子「シルクロード経済圏構想と中露の利害対立」遊川和郎[ほか]著『中国との距離に悩む周縁』亜細亜大学アジア研究所(2016年1月)所収、91-132頁。【総頁 192】

Yoko HIROSE, "Japan-Russia Relations: Toward a Peace Treaty and Beyond", in Yuki Tatsumi ed., *Japan's Global Diplomacy: Views from Next Generation*, Washington DC, Stimson Center, March 2015, pp.55-66. [all 76 pages]

廣瀬陽子「南コーカサスの地域紛争」帯谷知可、北川誠一、相馬秀廣編『朝倉世界地理講座 - 大地と人間の物語 - 「中央アジア」』朝倉書店(2012年9月)所収、297-314頁。【総頁 470】

廣瀬陽子「ロシアから見た南コーカサス：ザカフカスから南コーカサスへ」下斗米伸夫・島田博・編著『現代ロシアを知るための60章【第二版】』(明石書店、2012年)所収、272-276頁。【総頁 364】

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

◆研究室のHP:

<http://web.sfc.keio.ac.jp/~hiyoko/>

◆連載中のウェッジ・インフィニティのHP:

<http://wedge.ismedia.jp/category/russia>

◆不定期に連載中のシノドスのHP:

<http://synodos.jp/authorcategory/hiroseyouko>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

廣瀬 陽子 (HIROSE, Yoko)

慶應義塾大学・総合政策学部・准教授

研究者番号: 30348841

(2) 研究分担者: なし

(3) 連携研究者: なし